

令和6年度概算要求について (人文学・社会科学関係)

背景・課題

- 良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や巨視的研究の実施、市民等のデータ利活用促進など、**諸外国は人文学研究のデジタル化を積極的に推進**。「デジタル・ヒューマニティーズ」と称する世界的動向への対応や総合知の創出に資する観点から、**国内の学術機関の協働体制を構築し**、分野に適したデータ規格モデルの開発やAI利活用研究の事例創出、人材育成プログラムの開発など、**DX化のための基盤開発が必要**。
- **総合的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて**、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向や研究成果を把握するための**モニタリング手法の確立が喫緊の課題**。研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データを活用した研究動向や成果の調査・分析が必要。加えて、社会・経済・文化等に中長期的・多面的に生じる人文学・社会科学の多様な社会的インパクトやSNS等を活用した成果発信等に係る指標についても検討が必要。

事業の概要

(事業期間：令和6年度～令和8年度)

【事業の目的】 我が国の人文諸分野の研究DXを推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築して、データ基盤の開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。

I. データ基盤の開発に向けたデジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアムの運営

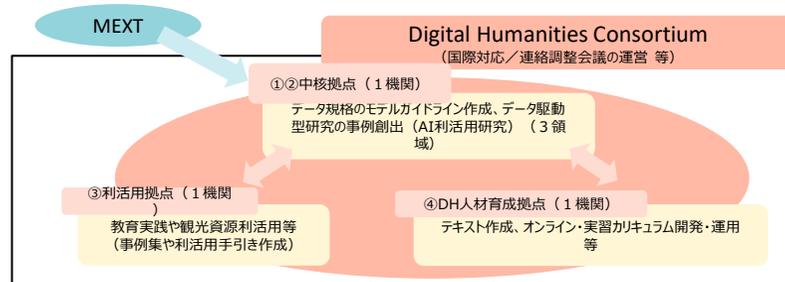
※国内諸機関と協働体制を構築し、国際対応や連絡調整会議の運営、以下の取組等を実施

- ① 人文諸分野のデータに係る国際規格対応
- ② 人文諸分野のデータ規格のモデルガイドライン策定、データ駆動型研究の事例創出
- ③ 教育利用・地域活性化に向けたデータ利活用事例の創出・発信
- ④ 若手研究者等を対象とした、人文諸学の特性に応じたデータ構築・AI利活用研究等に関する人材育成プログラムの開発・実証

※ 国から中核拠点に委託 (1機関・188百万円)



データ規格の統一による複数画像比較



II. 人文学・社会科学におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発

※モニタリング指標の開発に向けた調査・分析

- ① 「書籍」に係る研究成果を可視化する指標の開発に向けた調査・分析
- ② 多様な社会的インパクト、SNS等の「Altmetrics」、データベース構築等の研究基盤整備への貢献等の新たな指標の検討
- ③ 国際発信に係る指標の検討や諸外国との研究動向比較

※ 国から大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人等に委託 (2機関×25百万円)



- モデルガイドラインの活用、データ駆動型研究やデータ利活用の進展、DH人材育成 (プログラム展開)
- モニタリングの実施、国の施策への活用・展開

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画 (令和3年3月26日閣議決定) : 『人文・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用がますます重要』
『人文・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する』
- 「経済財政運営と改革の基本方針2023」(令和5年6月16日閣議決定) : 『第6期科学技術・イノベーション基本計画』(略)を着実に実行する。』『研究の質や生産性の向上を目指し、(略)情報インフラの活用を含む研究DXの推進』
- 「統合イノベーション戦略2023」(令和5年6月9日閣議決定) : 『人文・社会科学も含む総合知の活用が重要』『研究データの戦略的な収集・共有・活用に関する取組を加速するとともに(略)人文・社会科学分野も含め他分野に同様の取組を展開する』